

行っている医療機関に比べても見劣りするものではなく、誇ることのできる立派な治療成績だと思います。

**Q.**ところで、がんを早期発見すればどういったメリットがあるのか今一度説明してください。

**三輪部長**／まず、治療の選択の幅が広がることを上げることができます。

**Q.**具体的にはどんなことですか。

**三輪部長**／早期の段階であれば、食べ物を消化する胃本来の機能を失うことなく、胃の機能の温存が可能になり、患者さんが日常生活をするうえでのQOL(生活の質)が確保できます。さらに、再発率は低く、社会復帰もできるなど数多くのメリットがあります。こうしたメリットの恩恵を受けるためにも胃がんを早期に発見することが大事なのです。

**山村顧問**／私たちが、早期発見の大切さを口を酸っぱくして訴えているのは、三輪部長が言ったことに尽きます。

**Q.**胃がんに対する治療法は。

**福岡医長**／外科療法と薬物療法が主な治療法です。外科療法にはお腹を開く開腹手術と、お腹の表面に数ミリの穴を開け、そこから内視鏡を挿入して病巣を切除する腹腔鏡(ふっくうきょう)補助下胃切除術があります。

**三輪部長**／私たち消化器外科では、胃がんの治療成績の向上に日々努力していますが、その一方で、患者さんに負担をかけない医療にも取り組んでいます。

**Q.**具体的にはどんなことですか。

**三輪部長**／患者さんの治療内容に応じて、消化器内科、消化器外科、化学療法科、腫瘍科、放射線科が、患者さんのデータについて詳細に意見を交わし、最新、かつ安全な医療提供のできる体制を整えています。もちろん、この中には患者さんに過度の負担をかけない医療、また、優しい医療についても多角的に検討しています。

**Q.**負担をかけない医療、優しい医療とは腹腔鏡補助下胃内視鏡術のことですか。

**福岡医長**／この腹腔鏡補助下胃内視鏡切除術は、先ほどもお話ししたように何といても開腹手術に比べて患者さんへの負担は数段少なく、がんの病巣だけを切除することができるので、胃本来の消化機能を温存するという大きな利点があります。

**三輪部長**／患者さんにとって日常生活をするうえでの制約がなく、ほぼ普段と同じ生活ができるので、この利点は計り知れないものがあると思います。

**Q.**まさに、患者さんに負担をかけない医療、優しい医療を実践しているわけですね。患者さんからの反応は。

**三輪部長**／この腹腔鏡補助下胃切除術だと胃そのものがほとんど残っているので、「治療前と変わらない食生活ができる」と大変喜ばれています。

**Q.**胃がんに対するガイドラインが作成されています。

**三輪部長**／山村顧問もかかわってできた「胃癌標準ガイドライン」です。このガイドラインができるまでは外科医の経験則に基づいた治療が行われていました。しかし、現在は、エビデンス(確かな根拠・証拠)に基づき、科学的・医学的に裏付けされたガイドラインができ、いまではこのガイドラインに沿った標準的治療が行われるようになってきました。

**Q.**胃がんに対する有効な薬はありますか。

**山村顧問**／補助的な薬はありますが、今

のところ薬で胃がんが治るといった効果的な薬はないですね。

**Q.**近い将来に胃がんに効く薬が開発されるという期待はありますか。

**山村顧問**／可能性はないとは言い切れませんが、現状では難しいのではないかと考えています。

**Q.**サプリメントはどうでしょうか。患者さんから相談されることがあると思いますが、どのように対応していますか。

**三輪部長**／そうした相談はありますが、サプリメントは薬ではありませんし、科学的な裏付けされたものはないので、特に私から意見は述べていません。

**Q.**最後に胃がんにならないための予防法を話してください。

**山村顧問**／塩分を取り過ぎない、お焦げは食べない、緑黄野菜を多く食べるなどです。

**福岡医長**／ストレスを避け、暴飲暴食はせずにバランスの良い食生活を心掛けることなどです。

**三輪部長**／食後のげっぷ、胸やけ、お腹が張って仕方がないなどの変化が続くようだと診察を受けて異常がないかどうかの確認をすることも大事です。こうしたことは案外軽く見逃されやすいのですが、その裏には胃がんがあったというケースもあります。それと、とにかく早期発見が重要になるのでがん年齢の50歳に達した人は年に1回は必ず定期検診を受けることを強くお勧めします。

